

平成 27 年 7 月 21 日

平成 27 年度 大阪府立福井高等学校 第 1 回学校協議会 議事録

日時 平成 27 年 7 月 21 日 15:00～16:30

場所 本校ドリカムルーム

1 校長あいさつ

2 協議会委員・事務局員紹介 ※今年度会長の選任・・・永田委員

3 事務局より報告

- ・パワーポイントにより 32 期生（今年度入学生）意識調査の報告
意識アンケートの報告
 - ・福井高校を魅力的と回答した生徒が増加（74%）
 - ・保護者、兄弟から勧められて入学した生徒が増加
 - ・家庭学習習慣がついていない生徒が多い
 - ・国際交流に対する関心が高いなど
- ・平成 27 年度入学者選抜の動向等
 - ・前期入試⇒後期入試⇒前・後期入試⇒前期入試 と目まぐるしく変わる中、今年度は 1.24 倍であった。
 - ・昨年度は、退学生徒 2 名。ここ数年では最も少なかった。
- ・生徒指導関係（生徒の状況、生徒指導計画等）
 - ・2 年生が中だるみの状態
 - ・1 学期終盤、時限遅刻指導を強化
 - ・道路交通法の改正に伴い、自転車マナー指導を強化する。雨合羽購入、自転車保険加入を来年度から義務付ける
- ・進路状況（今年度、進路実績等）
 - ・AO、指定校推薦で安易な進路選択をしている生徒が多い（今年度は、対策を実施する）
- ・部活動等
 - ・顕著なものはないものの、茨木市大会優勝などといった、それなりの成績を挙げている。入部率は例年並み。
- ・入学者の状況と、本校の位置について
 - ・コスモス生徒（中国等帰国生及び外国人生徒選抜入試で入学した生徒）は全て茨木市外。この生徒を除けば 32 期生の市内出身生徒は例年並み。

- ・地域連携の取り組みの報告
 - ・ 昨年も例年通り、活発な連携（進路説明会、講演会、出前授業、オープンスクール、中高連絡会、部活による地域連携など）をおこなった。
- ・総合学科推進会議
 - ・カリキュラムの検討やガイダンス、「産社」「総合」の時間に実施するドリカムなど進捗状況の報告。
 - ・今年度は、広い観点で学校全体の議論を進めていく。
- ・広報活動方針、中間報告
 - ・サマーオープンスクール（8/21 実施予定）は、過去最多の応募があった。（300名超）。広報活動の成果と言える。
- ・多文化共生プロジェクト中間報告
 - ・今年度の基本方針は①日本語指導、②母語保障とアイデンティティーの確立、③日本にルーツを持つ生徒との共生
 - ・カリキュラム（抽出授業）の説明
- ・Yプロ（若手教員育成プロジェクト）の活動報告
- ・人権保健部進捗状況の報告

4 委員からの提言、意見等

- ・入試の変革は中学にも大きな影響を与えている。絶対評価導入により5段階で1,2の評価がつかない場合など様々なケースが発生する。学力レベルの高い中学校では、今までのシステムでは受験できなかった高校を受けれる生徒が出てくるだろう。
- ・多文化共生教育においては、外国にルーツを持つ生徒に対するアプローチと同時に、日本にルーツを持つ他の生徒たちが外国の文化や歴史を知り、国際感覚の醸成に繋げることが大切である。様々な国の文化や歴史を可視化すれば生徒の意識が高まるのでは？
- ・最近の小学生を見ていると、知識を問う問題の正答率が高いが、活用力が必要な問題の正答率が著しく低い。総合学科高校において実施している<調べる⇒選ぶ⇒まとめる⇒発信する>といった活動は、これからの教育において重要である。長い文章を読み、理解する力を養うことも大切である。
- ・自転車マナー指導において、運転教習所とタイアップしている高校がある。取り入れてはどうか？
- ・保護者として行事（体育祭）を見たが、生徒主体で良く取り組んでいると感じた。

平成 27 年度 第 1 回大阪府立福井高等学校 学校協議会出席者（敬称略）

番号	名 前	職 名
1	永田 光雄	元福井高校校長
2	永阪 誠	「福井高校を育てる会」会長 茨木市立彩都西中学校長
3	米澤 恵子	元茨木市立福井小学校長 茨木市授業力向上指導員
4	車川 剛	本校 P T A 会長
5	川又 澄子	福井公民館主事、 福井小学校放課後子ども教室コーディネーター
6	中村 信彦	元（社）とよかわ福社会専務理事 現相談役

事務局

番号	名 前	校 務 分 掌
1	藤原 秀彦	校長
2	田尻 肇	教頭
3	森田 正良	首席
4	原田 信尚	首席
5	奥村 恵生	教務部
6	高野 雄資	生徒指導部
7	岡崎 龍	進路指導部
8	小川 隆史	地域連携担当

次回予定 平成 27 年 12 月 11 日（金） 午後 3 時 0 0 分～（校長室）